

※美術画廊・ギャラリーNEXTは原則毎週火曜日を準備日とさせていただきます。  
店舗の営業日・営業時間等につきましては高島屋ホームページにて最新情報をご確認ください。  
※作品の販売に関するお問い合わせは、美術画廊係員までお願いいたします。

4月29日(水・祝)～5月4日(月・祝)

みず え とう きゆう  
**水江 東穹 展**

画業63年を迎える水江先生は、日本人の伝統的な美意識の中核をなす花鳥、山水を主題に、長年にわたり制作を続けてこられました。また、画家人生において最も大きな影響を受けた良寛様との出会いを契機に、そのお姿や日々の営みを丁寧に描き重ねてこられました。今展では、円熟の境地に至った筆致と豊かな感性によって生み出された作品の数々を一堂に展覧いたします。



「清溪」  
(54×28cm)

こう げい び  
**工芸の美 第55回 日本伝統工芸  
近畿展 出品者選抜展**

今年で第55回を数える日本伝統工芸近畿展。この度その近畿展出品作家による選抜展を開催いたします。卓越した技法を持つベテラン作家、着実に実績を積み重ねる中堅作家、そして今後の活躍が期待される若手作家たちが近畿展出品作とは異なる作品を展示いたします。伝統の技と個々の美意識から生み出された格調高い作品を幅広くご紹介いたします。



見野 大介「蒼天鉢」(33×33×高さ10cm)

5月6日(水・休)～11日(月)

さい とう しょう  
**齋藤 将 展「どーぶつのすすめ」**

齋藤先生は、動物をただかわいいただけでなく、シニカルな視点で人間社会に存在させるように描かれています。そこには先生の、現実には存在してしまふ、立場や職業や性別を作品の中では感じさせないよりに描きたいという思いが込められています。今展では、関西地域の当地グルメ(食べ物)をモチーフとした作品のほか、ミニチュール、立体作品も発表いたします。



「はじめてのえすぶれっす」(15号変形)

ふる たに のり ゆき  
**古谷 宣幸 -天目の続き-**

18歳の頃から天目の研究を続け、釉薬や形状にも制約の多い天目から、どこまで飛び出していけるかが先生の最近の挑戦です。これまでの穴窯で焼く天目茶盤と天目釉を使ったこれからの茶盤、酒器や器も併せてご高覧いただけますと幸いです。



「桃銀油満煤黒茶盤」(径12.8×高さ9.3cm)

5月13日(水)～18日(月)

いり え あ す か  
**入江 明日香 新作展**

入江明日香先生は銅版画のカラージュエと筆の描画を駆使した独自のミクストメディア作品で注目を集め、その作風は益々緻密さを増し、多くの鑑賞者を魅了しています。今展では新たな試みとして、作家が敬愛するフランスの建築家エクトール・ギマルの建築図面デッサンを背景に取り入れた作品のほか、今年の干支の馬や、龍、人物などを大作から小品、版画作品も含めて展覧いたします。



「Les prémices de la nuit(夜の訪れ)」(170×122cm／ミクストメディア、2025)

■5月14日(木)午後4時から

5月20日(水)～25日(月)

よし みず かい もん  
**吉水 快聞 展 -白幻-**

仏師、文化財修復家、そして僧侶としても活動中の吉水先生の待望の4回目の個展となります。その肩書から学ぶ技術や技法の応用、一歩ひいたところから感じる俗世界の面白みがいまって生まれてくる木彫作品には、神秘性と洒落っ気が共存しています。



「鎮座～ふくちゃん～」  
(座布団の横幅約10cm)

わか すぎ せい こ  
**若杉 聖子 展 ～舟の道～**

若杉聖子先生は、1977年富山県に生まれ、2000年に近畿大学文芸学部芸術学科卒業後、2003年には多治見市陶磁器意匠研究所を修了されました。磨込み技法を用いた無釉の白磁は、繊細でシャープな造形と柔らかな質感を生み出し、国内外で高く評価されています。今展では枕草子に出てくる「舟の道」から着想を得て制作した花器、煎茶器、オブジェまで、新作を一堂に展覧いたします。



「白磁蓮弁香炉」ほか  
撮影:下山 智章

5月27日(水)～6月1日(月)

しば やす ひろ  
**芝 康弘 展 そこにある光、めぐる生命**

芝先生は、日常の何気ない風景の中に息づく生命の輝きを見つめ、画面を満たす柔らかな光と、時を越えて受け継がれていく生命の連鎖を描き出します。静寂の中に確かな体温を感じさせる作品群が、「大切な光」の物語を静かに語りかけます。本展では、サラブレッドやこどもたちを主題に、130号の大作から小品まで約30点を展覧いたします。



「田植えの頃に」(20号)

ひろ さわ よう こ  
**広沢 葉子 硝子展**

ガラスならではの色彩や熔けたガラスから生まれる優い柔らかいフォルムを大切に制作されている広沢先生の4年ぶりの個展です。和の色合が魅力的な茶道具・アラバスク文様が特徴の祭器・透明感が美しい器や花器に加え、今回は照明も新たに発表いたします。



「水指(Peacock)」  
(径14.5×高さ15cm)

TAKASHIMAYA  
**Art Information** **2026 5・6月**  
NEXT  
高島屋大阪店 6階 ギャラリーNEXTのご案内

※美術画廊・ギャラリーNEXTは原則毎週火曜日を準備日とさせていただきます。  
店舗の営業日・営業時間等につきましては高島屋ホームページにて最新情報をご確認ください。  
※作品の販売に関するお問い合わせは、美術画廊係員までお願いいたします。

4 22 5 4  
WED MON・祝  
※4月28日(火)は開催いたします。

ふじ もと あき ひろ  
-ことばのおつかい- **藤本 明洋 木彫展**

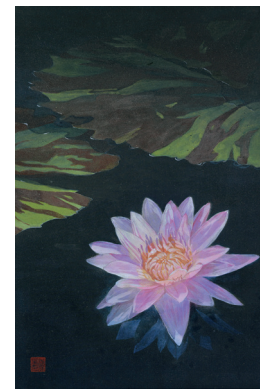


多くの人にとって、文字や言葉が思いを伝える術だとしたら、絵を彫り漆を使って彩色することが藤本先生の思いの伝え方…表情豊かな人物や独特の優しさを持つ動物に花や尾ひれ、翼の組み合わせは伝えたい、届けたいという思いの表れです。

「ことばの行方」(25×28×高さ53cm／繪・漆・水晶・彩色)

5 6 25  
WED・休 MON  
※5月12日(火)、19日(火)は開催いたします。

くされたるくさぼるとなる  
季節あそび 仲夏第二十六候 **腐草為螢展**



一年を二十四等分した二十四節気、そしてさらに三つに分けた七十二候…螢が光り出す時期は第二十六候「腐草為螢」です。朽草は螢の異名…螢は土の中で蛹になり、羽化して枯草の下から出てくるからです。そんな季節のうつろいに目を向ける日本人ならではの美意識をテーマに若手作家による瑞々しい作品をご紹介します。

- 〈出品予定作家〉  
青木 香保里 磯部 絢子 川上 椰乃子 川口 麻里亜  
外山 諒 中村 勇太 夏目 諭貴 野村 京香  
福本 百恵 谷中美佳子 山口 裕子 林 鈴君  
以上12名(敬称略・50音順)

青木 香保里「水面I」(6号)

6月3日(水)～8日(月)

こじま なおき  
唐津 小島直喜 陶展

先生は、唐津を代表する作家であり、先人達の古陶陶片等から伝統的な陶技を研究し、昔の技術と景色、土味、手触り、色、映りを再現すべく自ら野山に土や釉薬を求め、昔ながらの登り窯で焼成しておられます。焼成された作品は、日頃ご愛用いただければ少しずつ変化していきます。ぜひご高覧ください。



「彫唐津茶碗」(径12.8×高さ10.0cm)

エサシモコ カオデカクン  
二十周年記念展 一演じるー

テラコッタ素材に絵付けをして猫のコスプレ作品、カオデカクンを発表して20年…猫との生活からエサシ先生が着眼されるポイントや世相や地域性を反映させたものまで、今までのカオデカクンを振り返りながら、今回もウィット感とサプライズを携えてカオデカクンがやってきます。



「『胡蝶』チビデカクン」  
(高さ12cm/テラコッタ)

6月10日(水)～15日(月)

美の予感2026 ー象・彫・刻・塑ー

高島屋美術部が今後一緒に歩み、次代を担っての活躍を期待する立体造形作家のグループ展。仏像などの職人技術から芸術ジャンルへと確立した、日本の彫刻作品は世界的にも熱いまなざしが注がれています。素材の扱いも多様となり、今までの彫刻のイメージが覆されるかもしれません。

〈出品作家〉

石川 慎平 神楽岡 久美 久保木 要 黒田 恵枝 白谷 琢磨  
塚本 将慈 吉田 泰一郎 (敬称略・50音順)



黒田 恵枝「No.422 もけもけの」  
(30×33×高さ63cm/使われなくなった衣類・糸・綿・木材)

6月17日(水)～22日(月)

かとう けいざん せいじ  
作陶55年記念 加藤 溪山 青瓷展

先生は京都市生まれで京都市立芸術大学卒業。平成八年、三代目を襲名されました。先生の青瓷は長年の習練から独特の味わい深い色味が表現されているのが特徴です。先生の作陶55年記念展の新作をぜひご高覧ください。



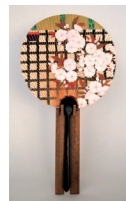
「砧青瓷不遊環花生」  
(径12.1×高さ26.9cm)

かざり うちわ  
飾り団扇と日本画展

古来、団扇は涼をとるだけではなく、その風で魔を打ち払う縁起物とされてきました。また、伝統的な京団扇の仕立てによる飾り団扇は、繊細で優美な意匠も備えています。本展では『百人一首』を共通の題として、各作家が取り組んだ飾り団扇の作品とともに、それぞれのテーマに沿った、本画作品を一堂に展覧いたします。

〈出品作家〉

秋野 亜衣 岩崎 絵里 木下 めいこ 後藤 吉見 佐々木 真士  
佐藤 はる香 田村 葵 長谷川 雅也 (敬称略・50音順)



佐々木 真士「けふ九重」  
(高さ40cm)

6月24日(水)～29日(月)

さかべ たかよし takayoshi SAKABE  
坂部 隆芳 個展 神の国 大倭日高見国と秦氏

気高さと抒情性に溢れる作品群は、やはり近代美術館をはじめ、国内外のコレクターから極めて高い評価を得ています。これまでパリ、ブリュッセル、イスタンブール、バイロイト…と海外を拠点に制作活動を続けていた画家は、つねに遠くから故郷に想いを馳せ、見つめてきました。そして今展、自然信仰、御霊信仰、古代から続く神に対する畏敬と尊重を体現するにいたったのです。「神の国」。美しい我が国を想う画家の誠意を感じ取っていただけたら幸いです。



「聴霧」(130×130cm)

坂部隆芳氏による舞踏パフォーマンス ■6月27日(土)午後3時から

いぐら こうたろう  
井倉 幸太郎 青白磁展

学生の時から青白磁の作品を作り続けて20数年。この数年は面取シリーズや水ノ華(蛭手)、石舟器、青白薄磁の作品のような独自の作品に挑戦しておられます。先生が感じる青白磁の美しさや面白さを体験してもらえたらと思っております。ぜひとも御高覧くださいようお願い申し上げます。



「青白薄磁面取茶碗」(径11.5×高さ9.7cm)

TAKASHIMAYA  
**Art Information**  
2026 5・6月  
高島屋大阪店 6階 ギャラリーNEXTのご案内

5月27日(水) 6月15日(月) ※6月2日(火)、9日(火)は開催いたしません。

なかじま むぎ  
中島 麦 展 DIVING to NEW COLOR



筆を使わない抽象絵画の制作を始められて約10年。傾けて固定したキャンバスに溶いたアクリル絵具を注ぐと、色材は画面を滑るように流れ、滴り、その軌跡は時間とともにキャンバスへ定着していきます。さらに、画面を回転させることで物理法則から解放され、絵具と重力が織りなす色彩空間を生み出します。本展では、『DIVING』と題したシリーズの新作群を展覧いたします。色彩の海へダイビングするような作品体験を、どうぞご堪能ください。

「DIVING 2026 S12-04」(61×61×奥行5cm)

6月17日(水) 6月29日(月) ※6月23日(火)は開催いたしません。

きの さとし  
木野 智史 展 磁器ろくろのその先-



「風(連立)」(36.0×7.0×高さ17.0cm)

木野先生は、1987年京都府に生まれ、京都市立芸術大学大学院美術研究科工芸専攻陶磁器修了。2017年パラミタ陶芸大賞展大賞、2020年には京都市芸術新人賞を受賞するなど注目を集める気鋭の陶芸家です。今展では、轆轤成形した磁土に、青白釉を施し、風の瞬間の動きを立体的に視覚化した代表作「風」をはじめ、近年取り組んでいる、青白釉の塊や、轆轤成形時に生まれる泥漿を集積したオブジェなど、従来の自身の作品を多面的に捉えた新たなシリーズ作品も発表いたします。